

英語科教育法 I (第 3 講)

学習者



目次

- ▶ 英語を学ぶ素質とは何であるか。
- ▶ 学習者の特質は何か。
- ▶ 学習者の認知スタイル
- ▶ 学習者の性格
- ▶ 学習者の動機付け
- ▶ 自立、自律、他律



英語を学ぶ素質とは

- ▶ **モチベーションが高い**：英語を学ぶ意欲や継続的な興味。継続的な努力と学習への情熱が素質として重要である。伝統的に統合的な動機と道具的な動機に分けられる。
- ▶ **コミュニケーション能力が高い**：言葉を使って効果的にコミュニケーションをとる能力。相手の意図を理解し、適切に伝えることが求められる。
- ▶ **柔軟性がある**：新しい言葉や表現に対する柔軟性。変化に対応し、異なる言語環境で適応できることが素質として役立つ。この場合は、年少であれば柔軟性が高いと言える。
- ▶ **異文化を理解できる**：英語を学ぶ上で言語だけでなく、関連する文化や習慣を理解することも重要である。この場合は、ある程度年齢を重ねて他文化を知った上ならば、さらに理解度が高まると言えよう。
- ▶ **自己学習能力がある**：英語を学ぶための資源を見つけ、自分で学習計画を立て、進める能力。持続的な自己向上が素質として評価される。英語教育の一番大切な部分は、自立して学習できる学習者を育てることであると言えよう。さらには、自立から自律へと進める。



英語学習に向いている素質とはどのようなものか。

- ▶ よく巷では、頭のよい悪いが関係するといわれる。それは認知能力と論理的な思考能力であるとも言えよう。それは、認知能力と論理的思考能力が関係すると考えられる。
- ▶ 認知能力：言語学習において、新しい言葉や構造を理解し、記憶するための認知能力が関連する。高い認知能力を持つことは、学習の速度や効率に寄与する。
- ▶ 論理的思考能力：英語の文法や複雑な構造を理解する際に、論理的思考が役立つ。論理的な思考能力が高いと、言語の規則や構造を把握しやすくなる。
- ▶ 言語を学問的な視点から用いるときは有効な能力である。



一般的なコミュニケーション能力も大切である。

- ▶ さらに、次のような能力も必要である。
- ▶ モチベーションと努力：英語を学ぶ上でのモチベーションと努力は非常に重要である。継続的な学習意欲や努力によって、認知能力を補うことができる。
- ▶ コミュニケーションスキル：英語はコミュニケーションの手段であり、コミュニケーションスキルも重要である。コミュニケーション能力の向上には、認知能力よりもむしろ実践と経験が役立つ。
- ▶ 柔軟性と適応力：新しい言語や文化に対する柔軟性や適応力も英語学習において重要です。固定概念にとらわれず、新しいアプローチや状況に適応できることが求められる。その意味では、若い人がより相応しいと言えるかもしれない。
- ▶ 自己評価とフィードバックへの対応：自分の学習スタイルを理解し、定期的なフィードバックに基づいて進捗を評価することも重要である。



教員側は学習者の特性を知る必要がある。

- ▶ 年齢：年齢によって学習は異なるのか。
- ▶ 知能レベル：知能レベルが高いほど語学学習は進むのか。
- ▶ 適性：語学学習に相応しい適性は何か。
- ▶ 認知スタイル：認知スタイルは何であるか。
- ▶ 性格：相応しい性格は何であるか。
- ▶ 動機付け：どのような動機で語学を学んでいるのか。



認知スタイル(cognitive style)

- ▶ 人間の知的側面を捉えている。
- ▶ 場面独立型と場面依存型(Field Independence and Dependence)
- ▶ Reflectivity and Impulsivity
- ▶ Tolerance and Intolerance



性格

- ▶ ①外向性と内向性
- ▶ ②肯定的な自己評価
- ▶ ③感情移入
- ▶ ④抑制



外向性と内向性

- ▶ 従来は外向的性格の方が言語学習に成功する可能性が高いと言われてきた。たとえば絵を見せて解釈や感想を自由に述べさせるテスト（pictorial stimulus test of oral Frequency）では、外向的性格者が良い成績を修めることが報告されている。それは自信、情緒的安定度、冒険心などの特性が外向性と結びつくからである。したがってcommunicative abilityが高いのは当然である。
- ▶ しかし性格的要因もまた状況や活動内容によって変化するばかりでなく、文化による差異も考えられる。日本での調査では内向型の学習者の方が、reading やgrammarばかりでなく、発音もより正確で、oral interviewの評価でも外向型の学習者との差は発見できなかったとの報告もされている。結局この性格的特性も、単独で学習の成功を左右するほど強力ではないと思われる。



統合的動機付けと道具的動機付け

▶ 統合的動機付けと道具的動機付け

- ▶ 「受験」は、学習者にとって確かに強い動機付けを与えるが、目標の学校に入學してしまうと、途端に学習の意義を見失うことがある。このような進路のためとか、ある特定の目的のために学習するのは道具的動機付け (instrumental motivation) である。一方、例えば、アメリカ文化にあこがれて、その文化に浸りたい、できれば、アメリカ社会の中で暮らして、同化したいと願って学習するのが、統合的動機付け (integrative motivation) である。

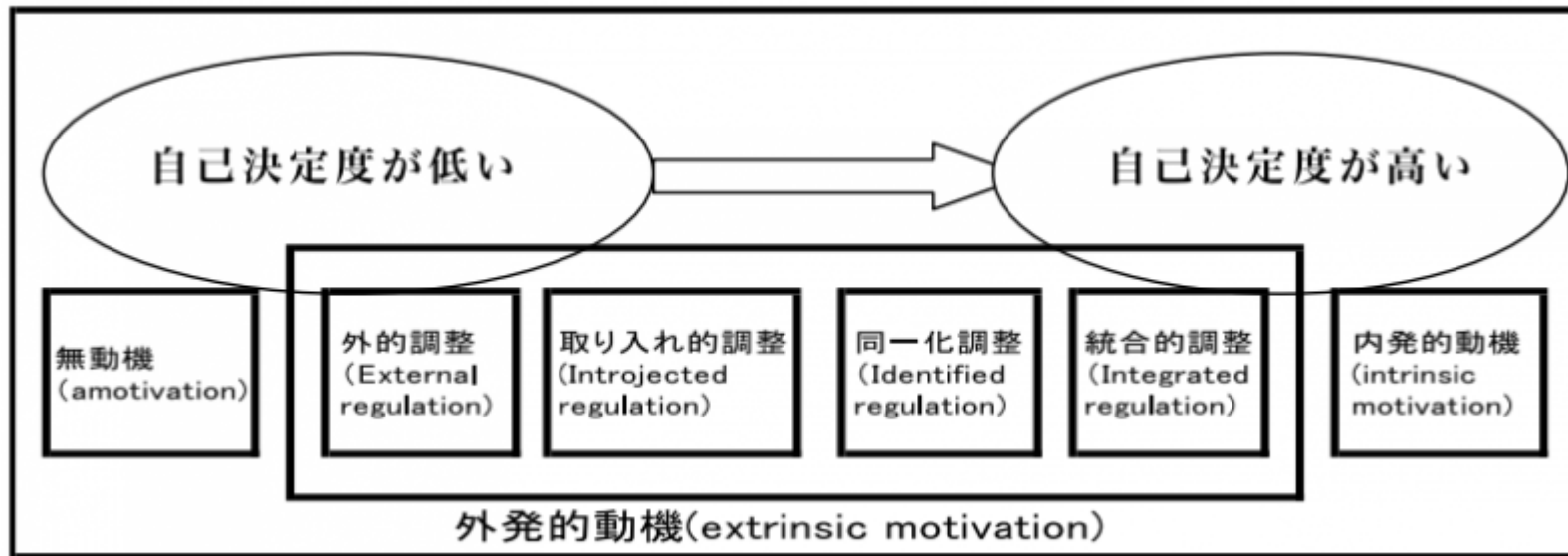


動機付け

- ▶ 外発的（外的）動機付けと内発的（内的）動機付け
- ▶ 外発的動機付けを高める方法としては、例えば次のような方法が考えられる。
①報酬や罰を与えること、②競争意識をかき立てること（成績の順位を公表することなど）、③具体的な目標を与えること（例えば、今週末までに、単語を50個を覚えるという目標を与えること）、④フィードバックを与えること
- ▶ 内発的動機付けを高めるためには、①学習者の興味や関心を喚起すること、②授業で、「驚き」や「発見」などが生じるようにして知的好奇心を刺激すること、③例題などを通して部分的に成就感を味あわせ(a sense of achievement)こと、などが挙げられる。
- ▶ 教室においては、学習者が自ら、英語を理解したい、学習したいという内発的動機付けがより重視されている。



無動機から内発的動機へ Deci と Ryan の自己決定理論



自立学習と自律学習（動機づけ）

	形式的自立学習（他律学習）	実質的自立学習（自律学習）
内 容	自分独りで立っていられること →自分独りで勉強できること	自分で決めた方向に進んでいけること →自分の興味・関心を追求できること
学習課題	一般的・網羅的	個別的・拡張的
進 度	計画的・不可逆的（ゴールから逆算）	漸次的・可逆的（できるところから）
動機づけ	統制的（アメとムチ）	内発的動機づけ・自己責任
フィードバック	客観的（抽象的成功者の視点）	主観的（学習者の視点）
規 範	取入れ（弱い内在化）	統合（強度の内在化）



自律と他律

- ▶ 自律：個人が自らの興味や目標に基づいて学習の進め方や内容を決定し、自分自身で学びを管理・実施する。自律学習者は自らの興味や学習目標に基づいて情報を収集し、自己評価を行いながら学びを深めていく。教員や指導者の役割は、学習者のサポートやリソース提供、フィードバックの提供などに限定される。
- ▶ 他律：一方の他者による指導や指示のもとで学習を行うことを指す。教員や指導者が学習の進め方や内容を決定し、学習者はそれに従う。他律学習者は指示された課題や内容に従い、指導者や教材によって提供された情報を活用して学習する。教員や指導者が学習の進め方や内容を決定し、学習者はそれに従う。



課題

- ▶ 自立、自律、他律の3つの概念を説明せよ。
- ▶ 語学学習と動機付けの関係について説明をせよ。
- ▶ 場面独立型と場面依存型はどのような認知スタイルなのか説明をせよ。

